

# CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301  
TEL: 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

## 中国の主要負極材料企業

ICC 資訊によると、2023 年に中国の負極材料の出荷量は約 159 万トンであった。そのうち、販売量上位 5 社は貝特瑞（BTR）新材料集団株式会社、寧波杉杉株式会社、上海璞泰来新能源科技株式会社、湖南中科電気株式会社、石家莊尚太科技株式会社で、これら 5 社は、それぞれ、負極材料の生産能力が 10 万トン以上であった。

表 1. 負極材料販売量上位 5 社の実績（2023 年）

企業名	2023 年の負極材販売量（万トン）
貝特瑞（BTR）新材料集団株式会社	36.19
寧波杉杉株式会社	26.40
上海璞泰来新能源科技株式会社	15.53
湖南中科電気株式会社	14.50
石家莊尚太科技株式会社	14.09

出典：石墨盟

### ● 貝特瑞（BTR）新材料集団株式会社

2023 年、貝特瑞（BTR）新材料集団株式会社（以下は「貝特瑞」）の負極材料の販売量は 36 万 1,900 トンで、世界シェアの約 22%を占めて第 1 位となった。そのうち、天然黒鉛負極材料は 30%、人造黒鉛負極は約 70%であった。海外市場では天然黒鉛負極を中心としている。

20 年余りの発展を経て、貝特瑞は天然黒鉛、人造黒鉛、新たな負極材料を中心に製品を供給し、2023 年末現在の生産能力は 49 万 5,000 トンであった。天然黒鉛負極材料は、黒鉛鉱の採掘から完成品までの完全な産業チェーン、人造黒鉛負極材料は、原材料、黒鉛化、炭化、完成品を一体化した産業チェーンを構築した。新たな負極材料分野で、珪素—カーボン系負極材料は比容量 2,000 mAh/g 以上の第 5 世代製品まで開発し、二酸化珪素—カーボン系負極材料は比容量 1,500 mAh/g 以上の多規格の製品の技術開発と量産を実現した。また、ナトリウムイオン電池用正極・負極材料の出荷と同時に、燃料電池、固体電池材料技術への研究開発も進めている。

海外市場では、インドネシアで年間 8 万トンのリチウムイオン電池用負極材料一体化プロジェクトの第一期事業の建設を進めており、年間 8 万トンの第二期事業を計画している。プロジェクト完了後、インドネシアにおける負極材料生産能力は年間 16 万トンを見込んでいる。

### ● 寧波杉杉株式会社

2023 年、寧波杉杉株式会社の負極材料の販売量は 26 万 4,000 トンで、前年同期より 44.55%増加した。そのうち、人造黒鉛負極材料の生産量は中国市場の 19%を占め、業界 1 位となった。

# CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL: 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

二酸化珪素-カーボン系負極材料は海外の顧客へ供給され、珪素-カーボン系負極材料の核心技術は米国、日本で特許を取得した。独自に設計した 1,000 トン級ハードカーボン負極材料生産ラインが稼働開始し、関連製品はナトリウムイオン電池、リチウムイオン電池（半固体電池を含む）、スーパーキャパシタ分野で実用化されている。

- 上海璞泰来新エネルギー科技株式会社

上海璞泰来新エネルギー科技株式会社の 2023 年の負極材料の販売量は前年同期比 11.35%増の 15 万 5,317 トンであった。

2023 年末現在、年間 11 万トンの黒鉛化加工と 10 万トンの炭化加工を含む 15 万トンの負極材料生産能力を有している。また、四川省で年間 28 万トンのリチウムイオン電池用負極材料一体化プロジェクトの建設を推進している。第一期事業（10 万トン）は 2024 年に生産を開始し、第二期事業（10 万トン）は 2024 年下半期に建設工事を完了し、第三期事業（8 万トン）は 2025 年に稼働開始する予定である。

2023 年 7 月に安徽紫宸科技会社を設立し、年間 1 万 2,000 トンのシリコン系負極材料プロジェクトの建設を開始し、2025 年に稼働する計画である。

- 湖南中科電気株式会社

湖南中科電気株式会社の 2023 年の負極材料の出荷量は前年同期比 20.11%増の 14 万 5,000 トンであった。同社は黒鉛負極材料のほかに、シリコン系負極材、金属リチウム負極材、新型炭素材料などの研究開発に力を入れている。

雲南省曲靖市で年間 10 万トンの負極材料一体化プロジェクトを進めており、第一期事業（5 万トン）は試運転を行っている。子会社の湖南中科星城黒鉛会社を通じてモロッコで年間 10 万トンのリチウムイオン電池用負極材料一体化プロジェクトを実施し、総投資額は 50 億元以内で、2 期に分けて建設する。第一期と第二期事業計の生産能力はそれぞれ年間 5 万トンで、建設期間はそれぞれ 24 カ月を予定している。

- 石家荘尚太科技株式会社

2023 年、石家荘尚太科技株式会社の負極材料の販売量は前年同期比 31.5%増の 14 万 900 トンであった。同社は 2017 年から負極材料産業に進出し、2023 年末現在、負極材料関連発明特許 12 件と実用新案特許 37 件を取得している。2024 年 2 月から河北省石家荘市で年間 10 万トンのリチウム電池用負極材料一体化プロジェクトを実施し、今年第 4 四半期に稼働開始する予定である。

情報源：石墨盟、ICC 資訊